

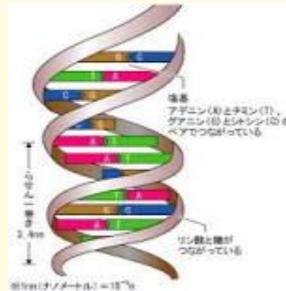
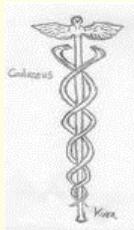
「かぐや姫と花咲と鶴の恩返し」の関係



「かぐや姫の物語(姫の犯した罪と罰)」をやっと観て来ました。
(世の中から3か月くらい遅れて生きてます)
テーマは「矛盾を超えて生きる！」ということだと感じました！
あ、これだと「風立ちぬ」と同じテーマになってしまいますね。
でもそれであっているような気がします。
宮崎駿監督が長調の調べで表現したとするなら、高畑勲監督は短調の調べ、宮崎駿監督が水彩画

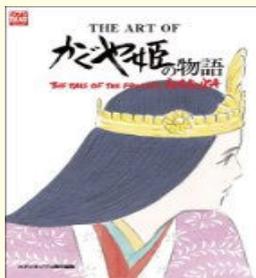
なら高畑監督は水墨画、陽といえば陰、左脳と右脳、ジョンとポール、ゴッホと北斎、アニメとアニムス、太陽と月、お前がカツ井ならおれは天井みたいなレベルのものまでも。。。

対極のエネルギー体が強烈なライバル心でスパークすることではじめて生まれる総合芸術作品という感じでしょうか。こんな関係のお二人だと思います(笑)↓↓↓



物語の中で、月に還ると全ての記憶が無くなるのに、なぜかわらべ歌だけは体が記憶していて憂いと愛着の瞳から涙がこぼれるという美しい設定に最もしびれました。(体のどこか深いところが賛同しました！)

そして、紅白の時の綾瀬はるかさんをなぜか思い出しました。



<http://www.youtube.com/watch?v=tJJS1iiQXRl>

彼女が歌った「花は咲く」は東北の子供たちの遺伝子に必ず記憶されますね。
東北のすべての人の言葉にならない悲しみを憂いと愛着の瞳で代弁してくれたような気がしました。
もう、どんだけとちっても、もっととちっていいぞ～って感じでしたね(笑)！



←綾瀬さん、この憂いと愛着の瞳でしたね。

小説「風立ちぬ」の作者堀辰雄さんはこの阿修羅像を見て「なんというういしい、しかも切ない目ざしだろう。こういう目ざしをして、何を見つめよとわれわれに示しているのだろう。」とおっしゃっております。(「大和路・信濃路」より)

そして奇しくもその答えを高畑監督が「かぐや姫の物語」の中で語っています。
ラストシーンで月から地球を、彼岸から此岸を憂いと深い愛着を持ったまなざしで見つめているかぐや姫の瞳で表現しています。

我々も重大災害が発生した時、被害者のことを思い、一瞬彼岸からのまなざしを持つことができます。しかしそのまなざしも時と共に忙殺され曇り、効率、背に腹、世俗にまみれ、いつしか此岸に打ち寄せられます。工事現場しかり、原発しかり、津波でんでんこしかり。

この人間の業、悲しい性(さが)、矛盾を憂い、そしてガッツリのみ込まれながらも、いつまでも彼岸からのまなざしを心のどこかで忘れず、コツコツ地道に春夏秋冬、安全パトロールをして、大みそかにコタツミカンで

「あ～～今年も1年、何もなくてよかった～～！！」
としみじみ実感して、心置きなく紅白が見れるときに安全マンにとっての一番の至福の時間ではないでしょうか？
「何もなくてよかった～～！！と言える俵せ」に 感謝！ 羽原篤史 

http://www.youtube.com/watch?v=T30X_0tRo6g
<http://www.youtube.com/watch?v=2gO7IsG-erw>

P.S.綾瀬はるかさんの瞳はかぐや姫と同じものだし、



は



で、

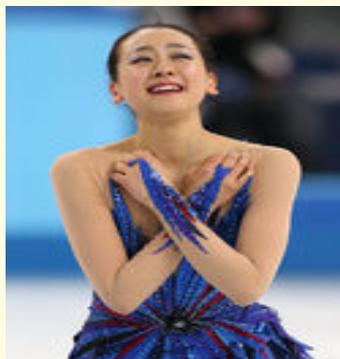


は春夏秋冬炭焼男。

NHKのマーヅナル(彼岸⇄此岸)キャスティングおそるべし！！
紅白歌合戦は深層心理の中では日本昔話のように展開されているんだと気づきました！！

《号外！号外！号外！号外！号外！号外！号外！号外！号外！号外！》
ここまで書いてこのブログをほったらかしにしておいたら、また深層日本昔話が展開されました！！！！

取り返しのつかない罪を犯してしまい彼岸(須弥山)に飛び去ってしまったと思った美しい鶴が、此岸でお世話になった人々に恩返しをするために再び舞い戻り、それはそれは美しい、この世のものとは思えない美しい舞を披露したそう。



「偽物の自分」に「自縛(緊張)」されて犯してしまう「罪(失敗)」からの「再生(リベンジ)」と「恩返し」を通しての「本物の自分」の獲得。という日本今昔話。

スポーツ選手でもビジネスマンでも主婦でも学生でも、日本人なら誰でも深層で共有する問題を見事に乗り越えて見せてくれた物語。真央ちゃん版「鶴の恩返し」。

「人間一人一人の自己成長」には「金」以上の価値があるということを真央ちゃんの憂いと愛着の「瞳」が物語って魅せてくれました。めでたしめでたし。